

群馬板金広場

(群馬県シートメタル工業会会報)

vol.17

2009年1月発行

GUNMA SHEET METAL PLAZA

G S M P

群馬県シートメタル工業会

<http://www.gsmp.gr.jp>

発行人

岡部 浩章

発行

群馬県シートメタル工業会事務局

〒370-0801

群馬県高崎市上並榎町342

TEL 027-362-3500

FAX 027-361-3066



新年あいさつ

人財を生かし明るい年に

群馬県シートメタル工業会

会長 **岩本 博**

(株式会社 太田治工)

新年明けまして、おめでとうございます。会員の皆様におかれましては、穏やかな新年を、お迎えのこととお慶び申し上げます。

さて昨年の経済情勢は 上半期は、比較的穏やかに推移しましたが、後半アメリカのサブプライムの破綻そして、9月のリーマンブラザーズ破綻と「100年に一度」と言われる世界的な金融危機と景気の失速の波に翻弄された年でありました。

原材料の高騰に景気の後退と、私達中小企業にとっては、厳しい年になるのではないのでしょうか。このような環境下では、縮み志向になりがちですが、このような時こそプラス志向で行きたいものです。当工業会がSKILL

UPを目指して取り組んでおります人材育成事業に ①板金加工通信講座 ②技能士の養成 ③板金図面検定試験の三つがあります。そのうちの一つ、第1回目の板金図面検定試験には、6社17名の方が受験され、8名の方が見事合格されました。合格率47%でした。初めての試験前講習に十分な時間が取れなかったことをお詫び申し上げます。

今年度の技能検定試験受験者は、機械板金の部2級に7社13名、1級に3社5名、NCTの部2級に11社19名、1級に3社3名合計40名という多くの方が受検されます。ご健闘を祈念申し上げます。

人材は企業にとって掛け替えのない財産です。それこそ「人財」です。私達企業を取り巻く厳しい環境下において人財は、中小企業が生き残っていく原動力になるものと確信いたします。私達は環境の変化に対応できる柔軟な、そして筋肉質の強い体質に変え、明るい年にしたいものです。

結びに、会員各社のご繁栄と皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年あいさつ

豊富な経験を世界に

株式会社アマダ

相談役 **天田 満明**

謹んで新年のご祝辞を申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。本年も業界の発展、振興に対しまして総力を上げて取り組んでまいりますので、変わらないご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、世界的金融危機が实体经济に大きな影響を及ぼしており、いまだかつてない不透明感の中での年明けとなりました。金融機関だけでなく製造業を取り巻く事業環境が非常に厳しくなってきました。

このような状況から百年に一度の世界的な景気の減速が起きていると考えられています。かつての大量生産、大量消費という無駄使いの構造から、再利用、循環型の環境を第一に考える社会構造に移行しております。しかしながら、群馬県の会員企業の皆様も多事多難を克服して発展され、今日を迎えられていると思います。

環境、資源、エネルギーといった最重要課題の解決策として今日では斯界の先達としてのキーワードの日本語(MOTTAINAI)は世界共通の言葉となりました。今こそ、「物づくり」において築きあげた豊富な経験を最先端のメイドインジャパンに込めて世界に送り出すチャンスと捉え、皆様に貢献できる製品の具現化を進めて行きたいと思っております。

昨年、弊社は米国、及びオセアニア地域の中核施設として展示場をオープンいたしました。又、トルコ、メキシコに現地法人を設立し、世界中のお客様への更なるサービスの充実化を図りました。

更にお客さま工場のデジタル化、マシンの知能化が進む中、アマダはトータル稼働支援システムを構築することで、お客さまの稼働損失を最小限に留める稼働支援サービスを強化するために富士宮事業所にパーツセンターおよびモジュール工場を建設することと致しました。事業の遂行にあたり、貴工業会の会員のみならずからも貴重なご意見を頂戴いたしました。心より御礼申し上げます。

最後になりましたが、貴工業会及び会員企業の皆様のご発展を祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



会員紹介

干支の牛のごとく着実な歩みを
皆さまとともに誓う会員の方々
を紹介いたします。

先人達の原点に戻る



(有)福田工業

代表取締役 **福田 賢哉**

私ども(有)福田工業を紹介させていただきます。

弊社は昭和23年に建設板金業として祖父と父が創設致しました。昭和30年に自社ブランド（穀物貯蔵タンク）の製品、加工、販売を機に法人組織とし(有)福田板金工業所を設立致しました。昭和34年に新工場を新築し、自社製品と量産部品の下請けとして業務を行ってまいりました。その後自社製品の製造販売をやめ、(株)アマダ製のベンダーを入れ、量産部品の下請けを主体としてまいりましたが、昭和44年に専務であった父が亡くなり、母と現専務を中心に業務を継続し、昭和51年頃から業務内容も変わり、多品種少量生産及び筐体加工が主体となりました。

昭和56年に前社長の祖父が亡くなり、私が社長に就任致しました。昭和59年にタレットパンチプレスを導入し、更に昭和63年12月吉井町池工業団地へ、新工場新築移転

及び設備も増設し、社名も(有)福田工業と変更致しました。この頃は主に中型、大型、スーパーコンピューターの筐体及び部品を製作し、お客様の受注先である大手メーカーの設計さんに直に加工方法の提案もさせて頂きました。この頃より今日まで提案型企業としてのスタイルは変えておりません。

現在は溶接Assyに力を入れ筐体加工、大型コピー機の外装カバー、業務用機器、その他色々と製作しております。

又弊社にお話し頂きました仕事に対しては、弊社及び協力会社を含め最大限の努力をすることを身上と致しております。

今後の進むべき方向として先人達の原点に戻り、自社ブランドの製品を持てれば良いなと思っております。

最後に最もデジタルな装置で作成したデータを最もアナログな職人の感性と五感をもって現実の物とするもの作りはおもしろい。だからやめられないと思います。

シートメタル役員の皆様、会員の皆様とあらゆる情報を共有し、又活用させて頂きながら共存共栄できます様、今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

ノウハウの蓄積でニーズ対応



金井板金工業所有

代表取締役 清水 芳幸

弊社は、昭和58年に前社長、金井清四郎により金井板金工業所として設立いたしました会社であります。設立当初はプレス機1台、スポット溶接機、ボール盤、ベンダー、溶接機ぐらの設備で創めたことを今も聞かされております。

私自身は前社長の次女と結婚した後、工業関係の仕事はまったく知らない私に仕事を手伝ってくれないかと説得され、軽い気持ちで入社をしてから24年たち、いろいろな経験や体験、勉強、資格を取得してまいりました。

仕事関係は主に自動車部品の製造、車輛、建材、医療とバリエーションが広く、薄板から厚板のプレス及び板金加工、ASSYまで、量産から多種小ロットを短期納期で作り込むことを会社方針にしております。

取引先は群馬県、埼玉県、東京都と関東エリアの範囲で営業活動を行っており、設立より取引がありましたダイハツ車体が2004年に九州大分県に工場移転を正式に決め、当時は一番の取引先が無くなる事で私も前社長もシ

ョックを受け途方にくれている日々も有りましたが、今までの経験や信頼度で会社紹介をいろいろな人に受け、ダイハツ車体の当時の売り上げには追いつきませんが今現在に至っております。

私自身も2005年8月に前社長から代表を受け継ぎ、一番大変な時に代表取締役となりました。一からのスタートと思い新規顧客の獲得を目指し富士重工の下請けとの取引や、ボッシュ関係の取引を獲得し2008年11月に顧客要望でありますISO9001認証取得をいたしました。

現在世界大不況となり、どこの企業も生産の減産が始まり「またか」としか言葉がありませんが、バブル時の崩壊、ダイハツ車体の移転、材料の高騰と今までいろいろな試練を乗り越えてまいりました、自信と経験と知識をいかし、蓄積した技術ノウハウを試作・開発・量産まで、お客様の様々なニーズに対応していきたいと思っております。

また、私の長男(23歳)が2008年11月から埼玉県で勤めた会社を退社し、弊社に入社しまして現場に入り「ものづくり」を一所懸命勉強している最中でありました。

今後も、先の見えない厳しい状況が続くと思われまます。役員の皆様、会員の皆様方とより多くの情報交換をさせて頂き、横の繋がりを大事にしたいと思います。

今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

誠実さを認めてもらう



武蔵工業(有)

代表取締役 阿久津 光康

シートメタル工業会の皆様にはいつもお世話になっております。私も武蔵工業(有)の紹介をさせて頂きま

す。
弊社は現相談役である阿久津武男により千代田工業(株)様の下請けとして昭和45年に創業致しました。創業まもなく昭和48年に第1次オイルショックを経験し、全国的に仕事が減少して、営業してもなかなか思うように受注ができない時に、自社製品の開発を下請け業務と平行して行うことを決意し、焼却炉の製造販売を開始して営業活動も殆どせずに『誠実さを認めてもらう』をモットーに前進して参りました。

その後も富士重工業(株)伊勢崎製作所様がバス事業から撤退したため相次いで、主力製品を失い幾度かの危機を経験致しました。そしてその穴埋めとして、慣れない精密部品や製缶製品等、色々な分野の仕事をやらせて頂き、設備も充実し薄板から厚板まで手掛けるようになり、それが今では良い経験となり、技術力も向上させて頂きま

した。

創業当時は設備もほとんど無く、簡単に出来そうと思われた焼却炉もいざ製作してみると、高熱を扱う商品なので、熱の為の変形による水漏れや、表面処理等なかなか奥が深く、安定した商品が出来るまでには、かなり苦労したと聞いております。そして平成11年にダイオキシン問題が発生し、焼却炉にとっては逆風となり、急激な減産に追い込まれまれました。

その後富士重工業(株)伊勢崎製作所様、アイチ車輛工業(株)様と御取引を開始させて頂き、焼却炉メーカーと輸送機械器具製造会社として、平成6年より現会長の小林徳雄に引き継がれました。

その後を受け平成16年より私、阿久津が社長に就任させて頂き、最近では(株)アリギス様、(株)サンキテック様より(株)アマダ様の商品の一部を微力ながら御手伝いさせて頂き、ここで又大きく前進しようと意気込んでおりましたところ、昨年のリーマンショック以降は弊社も厳しい状況が続いておりますが、会員の皆様とこれまで以上に情報交換させて頂き、この難局をのりきって行き(生き)たいと思っております。

これからもご指導ご鞭撻のほど、よろしく御願い申し上げます。

新入会員紹介

幸い転じて福となすを胸に刻む



(有)モリタ

代表取締役 **森田 桃子**

この度、シートメタル工業会に入会させていただくことになりました、(有)モリタの森田と申します。宜しくお願い致します。

弊社は桐生市で精密板金加工を営んでおります。現在の当社の経営状況は世間と同じように厳しい状況が続いておりますが、次の諺を肝に銘じて社員と子どもも進んで行く所存でございます。

災い転じて福となす。

昭和50年当地桐生で父（現会長）が、東京南部工業地

帯の町工場の中で、25年間精密試作板金加工技術を修得した経験を基に一人で手工業的設備によって創業しました。

当初はプレス加工メーカーの試作を中心にしておりましたが、順次近代的設備導入をする事となり社員も増大してまいりました。殊に数の少ない製品加工を生産の基本としている多品種少量精密板金生産の見本の様な会社でございます。

災い転じて福となす。……これは父の口癖ですがこんな時代だからこそチャンスだと思い、前へ前へと進んで行こうと考えています。

まだまだ経験が浅く、若輩者ですが是非皆様の色々な意見・お話を聞かせていただき、勉強させていただきたいと思います。これからも宜しくお願い致します。

意識向上につなげ時代をのりきる



(有)丸山鉄工

代表取締役 **丸山 繁樹**

初めまして。この度、群馬県シートメタル工業会に入会させていただきました、群馬県太田市の(有)丸山鉄工と申します。これから役員の皆様、会員の皆様には、何かとお世話になるかと思っておりますが、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

当社は昭和21年、農機具の製造・修理工場として創立後、昭和42年(有)丸山鉄工として会社設立、現在は板金加工・溶接を主体とし、洗浄器など、様々な板厚・材質の製品の加工に勤しんでまいりました。

これまで時代背景と共に取引先からの多様化するご要望に、良い製品を提供させていただくために、積極的に設備導入を行なってまいりました。初めは溶接機一台の

会社から、現在ではシャーリング・タレットパンチプレス・レーザー加工機からベンダー、プレス、特に溶接に関しましては、アルゴン・Tig溶接機まで、一連の製品加工を行なえるまでになりました。若いスタッフも入り、少数ではありますが、力を合わせて日々ものづくりを行なっております。

このところ、時代は非常に厳しい風が吹いていることを肌身で感じます。この厳しいご時世を切り抜けていくためにも、今回の群馬県シートメタル工業会への入会を機に、多くの会員の皆様とのコミュニケーションをとり、皆様と共に当社も更なるレベルアップができればと願っております。

また、様々な勉強会等にも積極的に参加させていただき、若い社員の意識向上にもつなげていきたいと考えております。そして、この群馬県シートメタル工業会の発展のために、微力ではありますが、尽力させていただきたいと考えております。

今後とも、宜しくお願い申し上げます。

10周年記念事業について 10th Anniversary

平成21年6月4日(木) 17:00～

ウェルシティ前橋において

群馬シートメタル工業会10周年記念式典を催します。

詳細につきましては後ほどお知らせいたします。

若手研修会

社員研修会に参加して

中島鉄工(株)
横倉 浩幸

今回、平成20年度「若手社員研修会」に参加させて頂きました。

アマダマシンツールプラザにて最新鋭の機械技術の数々を目の当たりにし、非常に興味深く見学させて頂くと同時に感動しました。

特に今、自らの仕事と関連性のある「デジタル電動サーボプレス」。ハンドルによりスライドが自由自在に上下し、パルスモーションで絞りを行うと板厚が薄くなりすぎないのには驚きでした。

また、研修会の中の特別セミナー「やる気を出させるリーダーシップ」の講義は非常に楽しく聴くことができました。特に心に残ったのは「モチベーションを上げること」。これは仕事だけではなく、人生そのものを豊かにするキーワードだと思います。本当のモチベ

ーションは外的刺激によって誘発されるものではなく、内側から起こってくるものであること。また明確な目標や困難な目標であるほど、パフォーマンスやモチベーションは向上するという言葉は印象深いものでありました。

今回、この研修で学んだことをできるだけ吸収し、これからの自分の仕事に少しでも反映できたらと思います。

自分自身の仕事意欲を向上させ、日々様々な事に興味を持ち、挑戦し続けていくことが大事だと確信しました。本当に貴重な体験をさせて頂き、有難うございました。



新任検定員

新任のごあいさつ



(株)太田治工
相良 寿夫

このたび機械板金作業の技能検定員を拝命しました相良寿夫と申します。11月27日に職業能力開発協会より、正式に検定員の職責を委嘱され、責任の重さが日に日に増しております。

私は、群馬県高崎市に生まれ、大学時代は一時群馬を離れましたが、卒業後は群馬に戻り、現在は邑楽町の(株)太田治工に勤務しております。前職を含めて30年余りにわたって、業務用の冷熱機器や理科学機器の開発・設計に携わってきました。

最近の新製品開発では、各社の商品機能が代わり映えない中で、競合他社とどのように差別化するかが大変難しくなっています。それ故、付加価値の高い外観デザ

インを実現する板金加工の役割が非常に大きくなってきたと感じています。特に、金型を多用できない少量生産品では、設計者がイメージした製品をそのイメージ通りの形に仕上げるために職人の技が求められており、工場板金の技能士の地位はますます高まっていくものと思います。

製造業を取り巻く環境が大きく変わり、熟練技能者が少なくなる中、技能士の養成が急務と言われています。技能士試験は、個人の努力・経営者の理解・職場の支援が三位一体とならないと合格が難しい資格ですが、検定合格はゴールではなく、あくまでも通過点です。資格取得を機にさらに技能を極めることはもとより、機械と向き合うだけでなく、顧客ニーズを捉える感性を磨き、顧客の信頼を勝ち得るコミュニケーション力を養うなど、自己実現を図っていくことが重要と考えます。

これから、検定合格に向けて日々研鑽している方々に応援する事に携われることは大変誇りに思います。私自身も検定員として求められる客観性、公正性を維持し、守秘義務を遵守し職責を全うする所存であります。群馬県シートメタル工業会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りたく宜しくお願いたします。

板金図面検定合格者紹介

(敬称略)

(株)中澤工業所



森 弘 隆

私は(株)中澤工業所で営業をしております森と申します。技能検定に興味はありましたが、入社してから一度も現場経験が無く、受検するチャンスは無いと思っておりました。

ところが図面検定ということで機械操作の経験が無くても受検でき、また図面の理解は営業としても重要なことと思いい受検を希望しました。

いざ講習を受けてみると、図面に関して自分の知識というものは、実に浅いものだと感じました。また出題範囲も広く過去の問題集が無かった為、出題の傾向が掴めませんでした。すべては自分の為と思い、教本を何度も読み返しました。検定当日は問題をよく理解し、勘違いをしない様心がけ、無事に合格する事ができました。

これからは自分の業務だけではなく後輩の指導等に役立てていきたいと思っております。

最後に、事務職である私に技能検定を取得する機会をくださった会社、並びに群馬県シートメタル工業会に心より感謝致します。ありがとうございました。

(株)太田治工



諸 田 義 光



中 野 学



吉 永 智 則

(株)岡部工業



大 嶋 利 充



石 井 健 一 郎



丸 橋 渡

(株)三波メタルワークス



大 川 洋 和

平成20年9月～平成21年1月 活動軌跡

9月5日～7日 管理技能ノウハウ活用研修
(朝霧スクエア)

9月6日 図面検定 (伊勢崎市民プラザ)

9月12日～14日 国内研修視察 (滋賀) =▽



9月13日 検定前学科講習会(伊勢崎市民文化会館) =△

9月19日～21日 改善テクニック活用②研修
(朝霧スクエア)

10月1日 第64回役員会 (東毛産業技術センター)

10月3日～5日 中堅パワーアップ<I>研修
(朝霧スクエア)

10月11日 検定前学科講習会 (伊勢崎市民文化会館)

10月18日 安全又は衛生のための特別教育=▽



10月24日～26日 リーダー能力強化フォロー研修
(朝霧スクエア)

10月26日 第10回親睦ゴルフコンペ (赤城CC) =▽



11月1日 検定前学科講習会 (伊勢崎市民文化会館)

11月7日～9日 戦略策定ノウハウ活用研修
(朝霧スクエア)

11月15日 若手社員教育<アマダマシン見学>
(アマダ展示場) =▽



11月22日～23日 検定前実技講習会 (株協和工業) =△

11月28日～30日 経営幹部リーダー研修
(朝霧スクエア)

12月4日 第65回役員会 (福一)



12月13日 検定前学科講習会 (伊勢崎市民文化会館)

1月 板金加工通信講座第一期開講

1月17日 工業会正副会長会 (フォーラム246)

平成21年1月～3月予定

1月19日 賀詞交歓会 第66回役員会
(ウエルシティ前橋)

1月24日 技能検定実技
(協和工業)

2月1日 技能検定学科
(職業能力開発協会)

2月7日 技能検定実技
(吉田鉄工所)

2月11日 技能検定実技
(太田治工)

2月14日 技能検定実技
(アリギス)

2月 現場作業者の為の実習教育
～第5回スポット溶接ゼミ～

3月 第67回役員会

What are you interested in?

写真から作品へ

(株)林製作所

代表取締役 林 進

2時間ほどの仮眠の後、慌ただしく準備し土砂降りの中を出発。扉峠を過ぎ右下に諏訪の光が見えたと思うと、霧が吹き上げてきました。誰が名付けたか名前の通りの霧ヶ峰。2時半八島湿原駐車場到着、真っ暗の中三脚を担ぎ場所取りに。雨も上がり満天の星、時折流れ星と人工衛星、真冬の戦場ヶ原には負けませんが怖くなるような世界が広がります。

夜明け45分前、東の空が青みを増してきました。周りには多くのカメラマンがこれから始まるドラマを待ち受けています。

永年続けたスキーから他の趣味にと考えた時、絵も描けないし字も書けないからシャッターを押すだけの写真がいいやなんて思いました。幸いオートフォーカスが主流となり、乱視でもまともな写真が撮れるようになった御蔭で始められました。

近場に多くの風景写真のポイントに恵まれ、感動的な時間とマイナスイオンの中、瞬間に集中する事によりストレス解消になっていると思います。

風景写真と一部のお祭りに限定して13年が経過しました。独学でしたが現場や写真展でお会いしたプロの方々の一言が大変参考になっております。

私自身メカ好きなので、中判などと呼ばれる大きいフィルムのカメラに行きそうなのを60歳までは封印し、一般的



に使われている35ミリにこだわり、トリミング無しの現場完結という条件の中で撮影しておりました。

現場でプロの方々が、大判の抑えや雑誌用にデジカメを使うようになったので、有名写真家のデジカメ写真の作品展を見て納得の上、4年前よりデジカメに変更いたしました。

今まで委託していた現像・焼き付けに相当する部分も自分で処理できるので、より面白さが増しました。

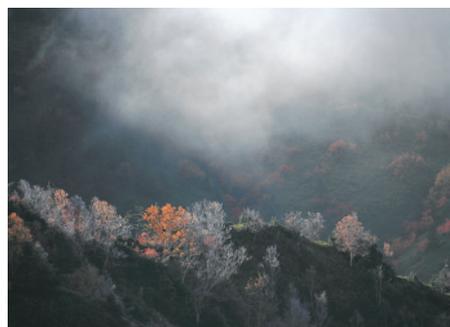
プロもアマチュアも機材の差が無いのに、アマチュアの写真とプロの作品は根本的に別物です。それは何が撮りたいか、何を表現したいかが明確なだけであり、写真はプラス、作品はマイナスです。

写真を撮る時は、景色が綺麗だったり、何処だという看板があったりして、今何処へ誰と来たか、天気はいいし楽しいよ、を表現しようと色々なものを足しています。

今何を見て何を感じたか、それを明確にする為、何がいらぬか、何が無くても良いかを考え削っていくのが作品です。

風景写真に限って言えば、絵と違い一期一会の世界であり、どんな高名なプロでもその場に居ない限り撮れません。またその場に居ても刻々と色や形が変化していきますので、それを瞬時に表現するテクニックが必要となります。

同じ場所で同じ時刻に同じ被写体を撮影しても、出来上がった作品は明らかに違います。自分の感性を信じ撮り続ける為、健康と体力作りに精進しようと思っています。



編集後記

10周年記念

2009年は、群馬県シートメタル工業会が発足して丁度10年になります。会員の皆様のご協力、また関係者一同様のご指導のお陰とGSMP編集人として感謝申し上げます。

10年経って改めて、この工業会の良いところ又特徴を考えて見ますと、1番目には全県区の同業者の集まりと言う点かと思えます。ここでポイントは全県区という事です。

我々中小企業家は様々な会に加入していますが市単位で行っている銀行のユーザー会、商工会議所の諸々の会などは、数多くありますが、全県区での会となると加入している会社は少ないかと思えます。

そうした会で県下から様々なタイプの社長クラスの方々が集まって、仕事から遊びまでの様々なアップデートな情報交換は、非常に有意義で且つ貴重であり、年齢・経験も様々な集まりの中で、色々勉強させられる事も数多くあります。

今後我が工業会も時代の変化と共に変化していく事と思いますが、あくまでも会員の皆さんがメリットを感じられる会として進化していく事が、今後更に10年存続していく事の最低条件であります。工業会の機関紙このGSMPも更に内容の充実化を図って参る所存で御座います。

今後も会員の皆様、関係者の皆様のより一層のご指導ご協力を賜る事を宜しくお願い申し上げます。

(岡部 浩章)